910.28
Ka145m
00352285

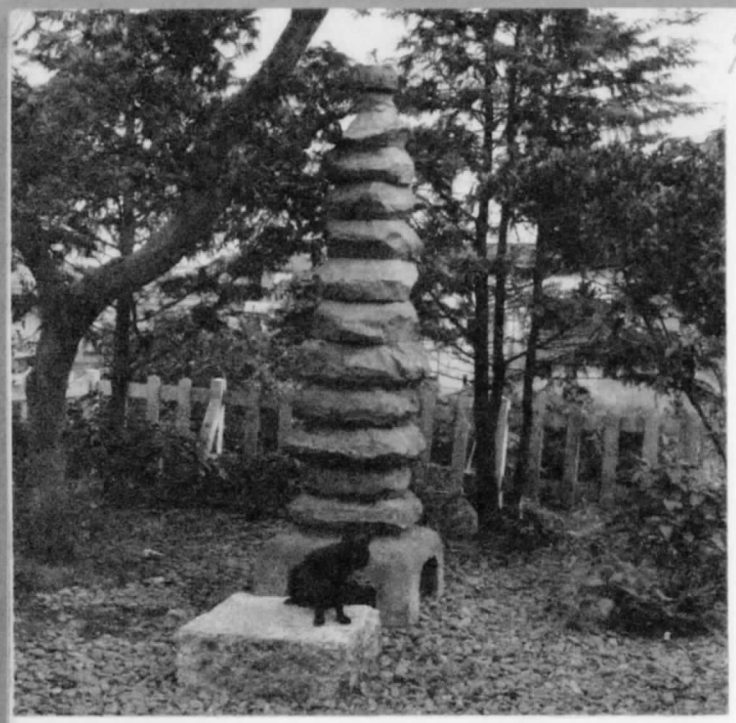
角川写真文庫　1

明治の作家

角川書店

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。　国立国会図書館　2015年7月27日

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年7月27日



漱石・猫・の墓

910.28Ka145m

角川写真文庫 1　明治の作家

監　修　塩田　良平
編　集　角川書店
写　真　仁田三夫
角川書店写真部

紙本

定価100円　1954年11月15日発行　発行者　角川源義　印刷所　株式会社グラビア精光社
製本所　株式会社鈴木製本所　発行所　東京都千代田区富士見町2ノ7株式会社角川書店

国立国会図書館蔵書

国立国会
29 12.10
図書館

352235

459

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年7月27日

東海散士

末広鉄腸

明治二三年一月、第一回国会が開かれるまでの自由民権運動は、同じ道をたどってきた先進諸国の歴史に学ぼうとする機運を呼びおこした。その政治熱が文学と結びついて、いわゆる政治小説の流行をもたらしたのである。米国フィラデルフィアに留学中の作者がある日独立閣を見物して二人の貴婦人に逢う場面にはじまる東海散士（柴四朗）の"佳人之奇遇"は、華麗な漢文体で書かれた大長篇であった。小国の亡国史に恋愛物語をからませた この政治小説は、争って当時の青年子女に読まれ、偽版まで横行するほどのベストセラーとなった。

ギリシア古代史の英雄たちを描いた矢野龍溪の"経国美談"（明治一六年三月―一七年一月）や、自由民権運動の志士国野基と富水お春の恋愛を中心に 理想的な国会の姿を示そうとした末広鉄腸の"雪中梅"（明治一八年八月―一月）"花間鶯"なども、政治小説の代表的著作として、多くの読者の支持を得ていた。

右は 佳人之奇遇 第1篇の表紙
上は 佳人之奇遇 第2編の挿絵

右は 花間鶯 合本の表紙 上は
花間鶯 の口絵（水野年方画）

蘇峰 徳富

雪宅三嶺

明治一九年二月、"将来之日本"を刊行して一躍有名になった青年思想家蘇峰（徳富猪一郎 文久三年―）は、郷里熊本で経営していた私塾を閉鎖して上京した。出版社民友社をおこし、社会評論を主とした総合雑誌国民之友を発刊するためであった。創刊号が、万をこえるほどの部数を獲得した この雑誌は、はじめは月刊であったが やがて月二回、月三回の刊行となり ついに週刊となるにいたった。当時の藩閥政府を批判し、個人の自由平等を主張する蘇峰の評論だけでなく"藻塩草"という文芸欄も、道遥 四迷 美妙 紅葉 露伴 鷗外らの寄稿を仰いで読者の興味をそそった。

欧化主義の色濃い国民之友に対抗して、日本主義の結社政教社は雑誌日本人を発刊した。それは、鹿鳴館時代に対する反省期にはいっていた当時の社会情勢をみちびく力となった。杉浦重剛 井上円了 島地黙雷 志賀重昂らとともに 終始国家主義の論陣をはった雪嶺三宅雄二郎（万延元年―昭和二〇年）は この雑誌の中心人物であり その妻は"藪の鶯"の作者花圃田辺龍子であった。

国民之友の
表紙 左は
徳富蘇峰

日本人の表紙
上は三宅雪嶺

352285

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年7月27日

明治三九年の同人　前列右より久我亀石・武内桂舟　岡田虚心亭・広津柳浪・巌谷小波　後列右より江見水蔭　石橋思案　川上眉山

我楽多文庫　上から筆写本　公刊本一号　公刊本一〇号　文庫

硯友社の人びと

九段中坂上の北側に、同益社という印刷所の倉庫があった。その白壁の土蔵の戸口に、硯友社という小さな標札がかかったのは、明治一一年の初夏のことである。我楽多文庫をその機関誌とする硯友社は、すでに明治一八年一月に結成され、我楽多文庫は筆写本時代、印刷非売本時代を経て、公刊発売の時期に入ろうとしていたのである。硯友社の社風は、公刊第一号の社則にも明らかなように、文学は人を楽しますべきものであるとした。従って思想よりも技巧が尊重された。その同人は、尾崎紅葉　石橋思案　山田美妙　丸岡九華・巌谷小波　川上眉山　広津柳浪　大橋乙羽　江見水蔭らであったが　ひとり美妙だけは明治一二年に雑誌都の花に迎えられて脱退した。

硯友社あと（手前の空地、中央の道路は九段中坂）

山田美妙

"夏木立"（明治一三年八月金港堂）の表紙

山田美妙

硯友社の同人の中で、もっとも早く名をなしたのは、美妙山田武太郎（明治元年――四三年）であった。明治二〇年一一月、言文一致小説"武蔵野"を発表して一躍文壇の寵児となった彼は、都の花主幹の地位を得て硯友社を去った。竹馬の友尾崎紅葉と交りを絶ったのはこの時である。短篇集"夏木立"を公けにして文壇的地歩を固めた美妙は、平家敗亡の日の壇の浦を舞台とする"蝴蝶"を発表したが　官女蝴蝶の裸体を描いた渡辺省亭の挿絵が異常なセンセイションをまきおこし、美妙の名を一世に高からしめる結果となった。しかし、この時期を絶頂として美妙は名声を失っていった。私行上の問題で坪内逍遙に攻撃され、また女流作家田沢稲舟との事件のために世の非難を浴びなければならなかった。紅葉の文壇進出と逆に美妙の晩年は失意の連続であった。

下を向いて慄へて居る蝴蝶の横顔、さしのぞけば愛と情と嬉しさとに撹乱されて涙は湧返るばかりです。

「あな、いみじき御姿」。思はず出した二郎の声　さて其声を見送るのか怨めしげに光りを凝らす蝴蝶の眼、手弱くも横へ向く二郎の眼。

――"蝴蝶"其一――

徳富蘆花

明治三〇年頃の徳富蘆花

上は小説〝不如帰〟（明治三三年一月　民友社）脚本〝不如帰〟（柳川春葉脚色・明治四二年）の表紙　右は〝黒潮〟の表紙（明治三六年二月　黒潮社）

〝自然と人生〟（明治三三年八月　民友社）の表紙

明治三一年の夏、逗子の柳屋の部屋を借りていた芦花徳富健次郎（明治元年――昭和二年）は、たまたま部屋を提供してやった大山巌元帥の副官福家中佐の未亡人から、大山家の内情を聞いた。元帥の先妻の娘信子は、子爵三島弥太郎と結婚したが　肺結核におかされていたので離縁され、「もうもう、二度と女なんかに生まれはしない」といって死んだという。その年の二一月二九日から、兄徳富蘇峰の主宰する国民新聞に連載された〝不如帰〟は、その信子を浪子に　三島を川島にしたモデル小説であつた。

〝不如帰〟によって文名を得た芦花は、つづいて〝自然と人生〟〝思い出の記〟を書いたが、明治三六年一月蘇峰と仲たがいをして民友社をしりぞき、みずから黒潮社をつくって〝黒潮〟を刊行した。

明治三九年四月、聖地パレスチナを遍歴するために日本を離れ、トルストイを訪問して帰朝した芦花は、四〇年二月東京赤坂の旧居から市外粕谷村に移り住んだ。その後の半農生活は、〝みみずのたはごと〟にくわしく記されている。

〝不如帰〟の口絵（黒田清輝画）

浪子は眼を開きぬ。身は独り岩の上に坐せり。海は黙々として前に漲へ　後には滝の音仄かに聞ゆるのみ。浪子は顔打掩ひつ　咽びぬ。細々と痩せたる指を漏りて、涙ははら〳〵と岩に堕ちたり。

――〝不如帰〟下篇――

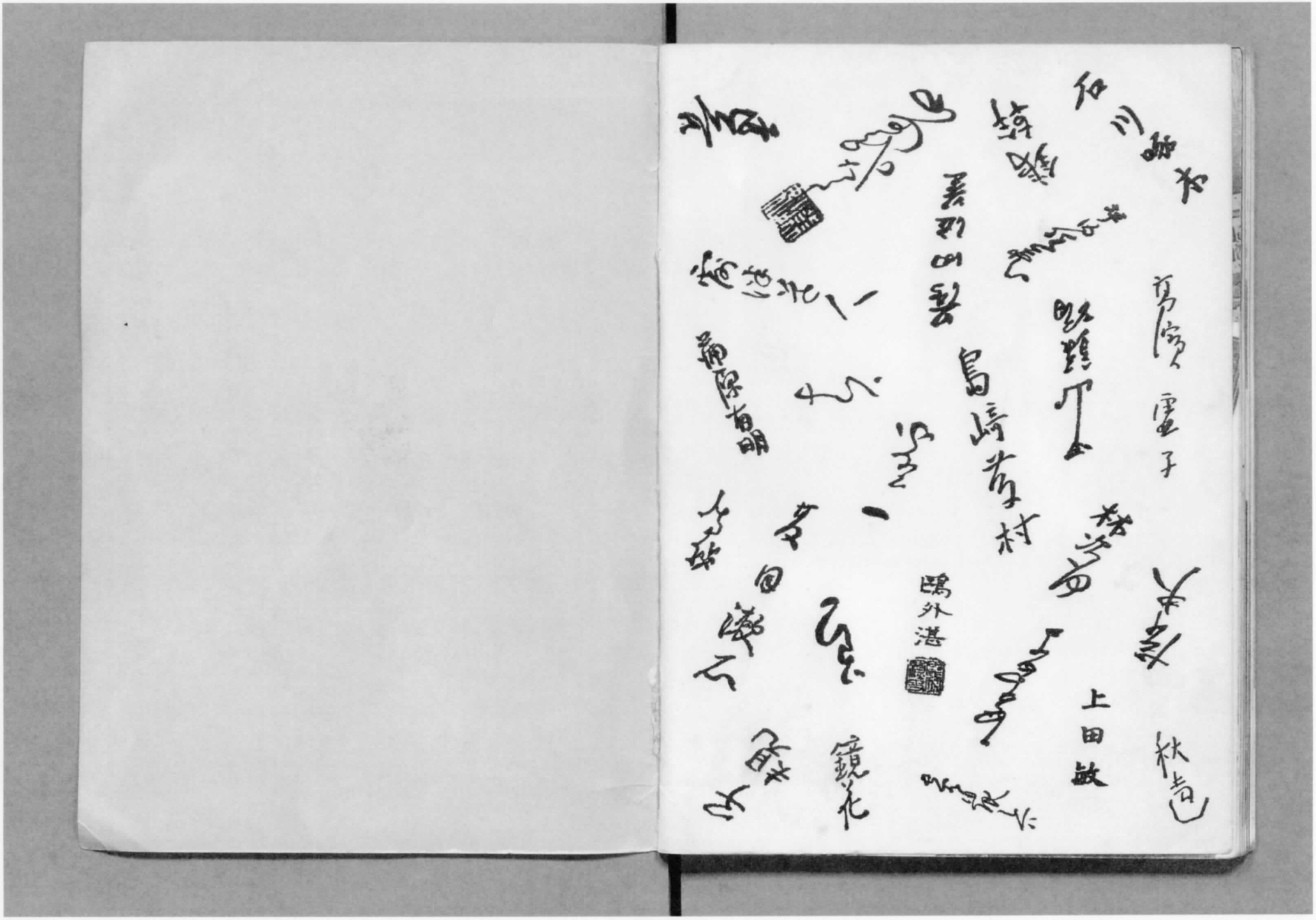
〝不如帰〟の舞台（明治41年4月　本郷座）　武男　伊井蓉峰　浪子　喜多村緑郎

現在の恒春園（左手の部屋が蘆花の書斎、手前に地蔵尊が見える）

地蔵様が欲しいと云つてたら、甲州街道の植木なぞ扱ふ男が、荷車にのせて来て、庭の三本松の蔭に南向きに据ゑてくれた。八王子の在、高尾山下浅川附近の古い由緒ある農家の墓地から買つて来た六地蔵の一体だと云ふ。眼を半眼に開いて、合掌してござる。

――〝みみずのたはごと〟地蔵尊――

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。　国立国会図書館　2015年7月27日



著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年7月27日